

過去分詞による前置修飾の研究

文学研究科英文学専攻博士後期課程3年

出縄 貴良

0. はじめに

英語の分詞には現在分詞と過去分詞とがあるが、このどちらもが名詞の前に位置する前置修飾と名詞の後ろに位置する後置修飾が可能である。この前置修飾と後置修飾の過去分詞について、江川（1991: 349）は次のように述べている（太字、斜字共に原文ママ）。

形容詞として名詞の前後につく a) 過去分詞が単独のときは名詞の前にくるが、b) 他の語句を伴うときは名詞の後ろにつく。

a) She likes **smoked** fish.

b) Italy is a peninsula **shaped** (= which is shaped) *like a boot*.

学校英文法においてもこのように習うはずであり、非常に簡潔で分かり易い説明である。

しかし、実際の英語にはこの説明に当てはまらない例がたくさんある。具体的に言えば、分詞一語であるのに名詞を後置修飾している例である。以下は British National Corpus (BNC) からの例である（これ以降引用する例文及び検索は BNC を用いてであり、それ以外の場合にはその都度明記する。また、下線部は全て筆者によるものである）。

(1) Complex instances of the clause occur in the following cases discussed:

(2) The physical vehicle is directly vulnerable to all the stresses listed.

(3) It allows us to record the principal ideas, key concepts, competing explanatory theories and illustrations used.

このように、過去分詞一語で名詞を後ろから修飾している例は探せばいくらでも見つけることができる。上記の江川でもそうであったが、このことは学校英文法ではほとんど触れられない。しかし、より詳しい文法書等にはこのことについての言及がある。

(a) The possibility of (pre) modification by a present participle depends on the potentiality of the participle to indicate a permanent or characteristic feature... Much of what has been said of -ing participles applies to -ed participles also...

(Quirk et al. (1985: 1325, 1327))

(b) When a past participle is used as premodifier it usually express the state that the referent of the noun head is in as a result of undergoing the action. This means that a premodifying past participle usually has an adjectival function. Participles whose function is felt to be verbal rather than adjectival are placed after the noun head.

(Declerck (1991: 454))

(c) We often use participles after nouns in order to define or identify the nouns, in the same way as we use identifying relative clauses.

(Swan (2005: 410))

(d) 名詞の「恒常的・分類的特徴」を表す分詞は、修飾する名詞の前に置かれる。名詞の「一時的な状態」を表す分詞は、修飾する名詞の後に置かれる。

(安藤 (2005: 232, 234))

このように、過去分詞が「永続的、恒常的、分類的特徴」を表し、より形容詞的な働きが強い場合には名詞の前に置かれ、「一時的な状態」を表す場合には名詞の後ろに置かれるということである。

本研究では、上記のことを踏まえながら、BNCの実例を観察し、過去分詞一語の前置修飾と後置修飾について考察していく。

1. データと研究方法について

データは全てBNCから集めた。分詞の中でも過去分詞だけに絞ったとはいえ、それでも膨大な数である。過去分詞を検索すれば、他に語を伴った過去分詞も引っかかってしまうし、更には受動態や完了形も含まれてしまう。そこで今回は、主語になっている場合に限定されてしまうが、「過去分詞 + 名詞 + 動詞」と「名詞 + 過去分詞 + 動詞」で検索をかけた。「過去分詞 + 名詞 + 動詞」は5,390例、「名詞 + 過去分詞 + 動詞」は6,812例ヒットした。それぞれの頻度の高い50語が表1である。なお、本研究では前置修飾する場合と後置修飾する場合との比較を目的としているので、前置修飾や後置修飾しかない語はリストから外してある。

以下の語を全て見ていくことは難しいので、この中でも比較しやすいものをいくつか選んで例文を観察し、前置修飾と後置修飾についての考察を進めていく。

表 1

過去分詞 + 名詞 + 動詞				名詞 + 過去分詞 + 動詞			
1	based (166)	23	used (31)	1	involved (414)	26	covered (40)
2	made (126)	27	created (29)	2	used (314)	26	paid (40)
3	known (110)	27	left (29)	3	required (188)	28	created (36)
4	spent (89)	27	published (29)	4	given (137)	29	reported (35)
5	given (75)	30	needed (26)	5	chosen (106)	30	quoted (33)
6	heard (63)	31	sent (26)	6	produced (101)	31	discussed (32)
7	taken (58)	32	acquired (25)	7	made (89)	32	identified (31)
8	found (55)	33	controlled (24)	8	taken (82)	32	studied (31)
8	written (55)	34	affected (23)	9	obtained (72)	32	suggested (31)
10	grown (47)	34	chosen (23)	10	needed (70)	35	achieved (30)
11	paid (44)	34	painted (23)	11	mentioned (65)	35	specified (30)
11	produced (44)	34	shown (23)	12	spent (63)	35	supplied (30)
13	thought (41)	38	issued (22)	13	provided (62)	38	based (29)
14	appointed (40)	38	planned (22)	14	offered (58)	38	found (29)
14	held (40)	40	put (21)	15	affected (57)	48	illustrated (29)
16	trained (39)	41	added (20)	16	received (55)	41	considered (28)
16	treated (39)	41	charged (20)	17	described (54)	41	entitled (28)
18	designed (36)	41	included (20)	18	included (52)	43	charged (27)
19	owned (35)	41	operated (20)	19	raised (51)	44	allowed (25)
20	built (34)	41	presented (20)	19	selected (51)	44	collected (25)
21	defined (33)	46	introduced (19)	21	adopted (45)	44	developed (25)
22	elected (32)	47	offered (18)	21	employed (45)	44	recorded (25)
23	drawn (31)	48	agreed (16)	21	presented (45)	44	represented (25)
23	formed (31)	48	bought (16)	24	generated (41)	49	cited (24)
23	received (31)	48	reported (16)	24	proposed (41)	49	claimed (24)

2. 考察

2.1 involved

まずは後置修飾で一番数の多かった involved について考える。「名詞 +involved+ 動詞」だと例が多すぎるので、更に「名詞 +involved+were」に限定して検索をした。すると 63 例ヒットした。これに対して、主語になる名詞を前置修飾している involved は後に来る動詞に関係なく 5 例しかなかった。このことから、involved は一語であっても後置修飾の方がかなり多いことが分かる。では、前置している involved にはどんな特徴があるだろうか。以下にその 5 例を示す。

- (4) What I did was to teeter from side to side like a tall mast on a small ship in a heavy sea. Some involved navigation got me across to the door and into the other room.
- (5) Other equally emotional involved works include a handful of landscapes of the countryside around Guisborough itself.
- (6) Other involved bodies include European Telecommunications Standards Institute, the International Telecommunications Union, the World Administrative Radio Conference, the military community, and associations including those for the electronics, civil aviation and maritime industries.
- (7) As this increase amounted to 50%, the relative concentration of involved genes rose from 20 to 30%.
- (8) The neighbours of the four involved families were vehement that there was nothing like this going on.

まず (4) について考える。この場合の involved は「関連した」や「含まれた」といった意味ではなく、「複雑な」といった意味になっているので前置していると考えられる。既に上述した「永続的、恒常的、分類的特徴」を表す形容詞的な働きをしているということである。

(5) と (6) では other という語が共通して見られる。このことから、この other という語が前置を可能にしていると考えてみる。other があることで、(5) では works が「関連している」作品が、(6) では bodies が「関連している」機関が既に前の文で出てきていることが予想される。つまり既に述べられた作品や機関に「関連している」ということが、この works や bodies の不可欠な特徴となっており、切り離せない関係になっているのである。(5) で emotional という形容詞が前に置くことができていることから involved と works の結び付きの強さがうかがえる。また、状態を表しているわけであるから、文章自体の時制に関わらず「関連している」と訳すことができ、「関連していた」とはできない。更に「永続的・恒常的」であるということを踏まえると、一時的であることを示すような語、例えば「その時に」といったような語を付け加えることはできない。

(7) と (8) については、もう少し文脈を広く見る必要がある。

- (7') Since the number of intact genomes per nuclear genome increased, the relative concentration of genes involved in deletion (per nuclear genome, thus per cell) likewise increased. As this increase amounted to 50%, the relative concentration of involved genes rose from 20 to 30%.

- (8') They were rejected in Rochdale, and even in Nottingham, where cases of sexual abuse were upheld, and nine parents were found to have been involved in elaborate and organised abuse, there was no evidence that they did this as part of any satanic rituals or worship. In Orkney, the idea of devil worship was seen as ridiculous. The neighbours of the four involved families were vehement that there was nothing like this going on.

このようにより文脈を広げてみると、二重下線で示しているように、(7)、(8) 共に少し前に involved が出てきているのが分かる。二重下線の involved によって何に関連しているのが明確にされている。(7) では “involved in deletion” が、(8) では “involved in elaboration and organized abuse” がそれぞれ genes と parents を他と区別する特徴となっている。そのために、二回目に出てきたときには involved を前置させることができるのである。(8') では parents が families に変わっているが、十分言い換えとみなすことができる範囲である。

このことについて、現在分詞についてはあるが approaching を例に出して安藤 (2005: 233) は「ひとたび、観光客が「近づいてくること」が、先行文脈から明らかになったならば、‘the -ing NP’ の形式が使用可能になると思われる」としている。(5) ~ (8) もこれに当てはまるものと思われる。

名詞が other を伴っていても、過去分詞が後置されている例も存在する。「other+ 名詞+involved+ 動詞」で検索すると 10 件ヒットする。それらの例全てというわけではないが、後置の特徴が見られる。

- (9) The accident happened on the C38 back road from Darlington to Sedgefield shortly after 1pm. The dead man has not yet been identified although it is known he was 39years-old [sic] and was travelling as a front seat passenger in a Ford Escort van. The other vehicle involved was a Vauxhall Cavalier.
- (10) In these cases a Senior Police Officer has ‘first read’ of any papers and all other personnel involved have been required to enter into an undertaking to respect the security of the information.
- (11) The students’ aim was to produce a database and they were thus involved in skills of defining their information needs, planning methods of acquiring information, and assessing the information needs of the users of the database. Other skills involved were the planning of time, the allocation of tasks... and editing of information gathered.

(9) であれば「(その時に) 巻き込まれたもう一台」となるし、(10) であれば「(その時に) 関係のあるその他の職員は全員」、(11) であれば「(その時に) 取り組まれたその他の技術」となり、焦点の当てられた時点よりも前や後は視野に入れるべきではないと主張したい。

2.2 used

次に前置修飾では 26 位、後置修飾では 2 位にある used を見る。分詞の説明において、“a used car” が「中古車」として例に挙げられていることがある。used を形容詞で「中古の」を意味すると記している辞書も多いが、そのことを知らなくても前置修飾の特徴を知っていればこの意味も予想できることであろう。(その時に) 使われたということを示すわけではなく、使われた結果どうなったか、どういった特徴が付加されたかということに意識を向けなければならない。これは分詞を理解するうえで非常に大事なことであるが、意外と学校英文法では触れられていないように思われるし、教えるべきである。そうすれば、“a broken window” が「(その時に) 割られた窓」ではなく、割られた結果の「割れた窓」だということに、“the torn shoe” が「(その時に) 破かれた靴」ではなく、「破れた靴」だと理解できるはずである。

実際の例文を考察する。ここでも例文数が多いので動詞を were に限定する。ある程度予想通りではあるが、後置修飾の場合は 59 例中全てが「(その時に) 使われた」という意味で前の名詞にかかっている。前置修飾の例はたった 3 件しかなかった。

(12) Used envelopes were recycled using stick on economy labels.

(13) Lowuse sites were found to be depleted only in nitrogen though the heavily used ones were depleted of potassium and magnesium and possibly of calcium and phosphorus as well.

(14) For session 1988-89 12 of the most widely used descriptors were revised: ...

(12) は上述した前置修飾の used である。中古の封筒というのは日本語としては不自然なので、使用済みの封筒といった感じになるだろう。使われたということが重要なのではなく、使われた結果どうなったかという「その後の状態」に焦点がある。

これと同じことが前置修飾で 4 位、後置修飾では 12 位にある spent でも見られる。

(15) Hops are added and the mixture is boiled. Spent hops are filtered from the HOP BACK.

(16) However, during the run up to privatisation, it was established that the running

costs of the nuclear power stations were higher than was previously believed and that, in addition, the costs of decommissioning these power stations and reprocessing the spent fuel were both high and uncertain.

(17) Accordingly, the amounts spent are staggering.

(18) Time spent is not recoverable, while improved performance will often enable recovery of money in the medium term;

(15) と (16) では spent が前置しており、「使用済みの」といったような意味になっている。確かに、どちらも「使われた」ということで考えれば、後置修飾の場合とあまり違いがないように感じられる。しかし、ここでもやはり前置修飾の場合は使われて、その後の結果どうなったかが大事なのである。(15) も (16) も、使われ、役目を果たし、その結果不必要になったという特徴を持つ。(17) と (18) の例文を見れば、その対比は明らかである。それぞれ amounts も time も使われたということが着目点であり、使われた結果何か特徴が付加されているわけではない。

しかし、(13) と (14) は上記で述べたような前置修飾とはみなすことができない。後置修飾のように訳す方が自然である。ここでは used の前にある副詞、heavily と widely に注目すべきである。杉山 (1998: 406) が「分詞が、その修飾する名詞の、①習慣的な行動を意味するとき、②持続性のある特徴を意味するとき、には前置される…。しかし、分詞に副詞が加えられると、上記の条件に外れた場合でも前置できる場合がある」としている通りであろう。試しに動詞を are に変えて、前置の used の例を見てみると、16 例中 11 例に副詞がついていた。commonly 5 例、widely 2 例、heavily / poorly / more / most 各 1 例であった。

ここで少し、この 2.2 で述べてきた前置修飾の特徴をまとめ、考察したいと思う。used と spent の例を挙げて、前置修飾の場合、結果としてどういう特徴を持ったかということに焦点があると述べた。そしてここで付け加えたいのは、その特徴が付加されることで、同種の別のものとの対比がはっきりするということである。更に、その特徴によって、当然であると考えられる状態と対照的であることが望ましいと考えられる。もう一度“a used car”が「使われた車」ではないということを考えたい。つまり、「中古車」≠「使われた車」ということである。確かに「中古車」は「使われた車」の一部ではあるが、道を走っている車も、駐車場に止まっている車も「使われた車」である。こういった車を指して「中古車」とは普通言わない。一般的に「中古車」とは売買において使われる語である。この場合、売られている車が新車であるという常識があり、それとは対照的であるということで「中古車」が使えるのである。(15) と (16) の“spent hops” と “the spent fuel” にも同じことが言える。

副詞を伴うと前置されることも、このことから説明できる。(13) では、使われたものの中でも「大量に (heavily) 使われた」、(14) では使われたものの中でも「広く (widely) 使

われた」という様に他のものとの対比が際立っている。

過去分詞ではないが、unbroken の例にこれと同じことが見られる。“a broken window” と言うことは可能であるが、“unbroken window (s)” とは一般的には言わない。窓というのは壊れていないことが当然であるため、「壊れていない窓」とうのは「窓」だけで事足りるからである。ただし、文脈次第では十分可能となる。実際に、1 例見つかる。

- (19) The invader, panting, leans against the wall between the two improbably unbroken windows, nursing an arm hanging at an illogical angle, then slides straight down to sit, legs asprawl in a wide-open V-for-vengeance, on the floor.

この場合も、improbably という副詞が伴っている。これによって普通の窓と対比させて、unbroken を際立った特徴としているのである。

なお、安藤 (2005: 235) は「分詞が副詞語句や目的語を伴う場合は、義務的に修飾する名詞の後に置かれる」として “Cars parked (= which have been parked) illegally will be removed.” という例文を挙げているが、これはあまり正確であるとは言えない。実際 BNC では “parked illegally” という句は 3 例であり、そのうち 1 例は文中に挿入される分詞構文であり、1 例は with を伴う付帯状況の例であった。これに対して “illegally parked” は 11 例あり、そのうち過去分詞として名詞を前置修飾している例は 6 例あり、やはり副詞を伴う時は前置修飾すると考えた方が良さそうである。また、この中には安藤の例とは違い、「名詞 +illegally+parked」となっているものが 2 例あり、興味深い。

以上ここでは、一般に当然と思われる状態と対照的で際立った特徴を付加するということを、前置の大きな特徴の一つとして挙げておきたい。

2.3 written

最後に、前置修飾 9 位の written を見る。ここでは note (s) を修飾している written に注目する。Longman Dictionary of Contemporary English (LDOCE) では note の定義をいくつか載せている。その中でも “something that you write down to remind you of something” と “a particular musical sound, or a symbol representing this sound” という定義に着目したい。前者は「メモ」で、後者は「音」や「音符」となるだろう。2.2 において、前置修飾は一般に当然と思われる状態と対照的で際立った特徴を付加ということが大切であることを述べた。では、written と note の関係はどのように考えられるだろうか。メモというのは書かれるのが普通であるから、「書かれたメモ」というのはやや不自然である。これに対して、音というのは書かれることが当然であるとはならないだろう。鳴らされたり、奏でられたりする方が普通である。よって、「書かれた音 (音符)」というものは十分考えられ

る。書かれた結果として目に見える形になるという特徴が付加される。これにより楽譜などを思い浮かべることができる。

では、実際の例文ではどうだろうか。“written note”で検索すると12件ヒットする。そのうち「音」を意味すると考えられる note は5例とそれ程多いわけではなかった。

(20) You do a wobble yes it the correct thing is a rapid alternation between the written note and the note above or between the two written notes. So trill is a rapid alternation between the two notes given okay.

(21) The B flat bass saxophone sounds two octaves and a tone below the written note.

では、note が「音」以外と考えられる意味で使われている例文にはどんな特徴が見られるだろうか。分かり易い例から見ていく。

(22) There was a crudely written note attached to the child giving her name and saying that the mother was an unmarried Irish girl who had been in service and was going back to Ireland.

(23) And he wrote beautifully. A hand written note to go to say, er er Lloyd George in George's offices.

(22) では crudely という副詞が伴っている。これは既に 2.2. で述べた通りである。(23) は handwritten と一語で綴られることもある形容詞である。形容詞が名詞の前に来ているだけだとしてしまうのは簡単であるが、2.2 で挙げた unbroken のことを踏まえると示唆するものがあると思われる。つまり「手書き」ということがメモの当然の特徴ではなくなっているということである。タイプライターやワープロで書かれたものとの対比で使うことができるのである。そしてこの「手書き」という特徴は、written だけであっても含むことができるように思われる。

(24) Already many district nurses and health visitors record details of their work on hand held terminals, rather than in written notes.

(24) は notes の例ではあるが、二重下線部の terminals との対比として written notes が使われており、この場合の written には手書きという意味が含意されていると思われる。

“written note” の例文の考察に戻る。

(25) We have reported that half the deaths in the Glasgow neurosurgical unit followed a written note in the medical record to limit treatment,

(26) Viktor Rakovsky was in conference when the message came.... He glanced briefly at the written note, put it aside and went on with the meeting.

よってこの2例は、「書かれたメモ」というよりも、もう一歩進んで「手書きのメモ」という認識を持つ必要があるのではないかと主張したい。特に(25)の場合は“a note written in the medical record”とした場合との比較が問題になるだろう。これは今後の課題の一つであるが、現時点では、後置した場合には「手書き」という特徴が消え、ただ「書かれた」というニュアンスだけを持つのではないかと考えている。

残り3例についてである。

(27) “I am extremely busy, Mr Stevens. A written note if the message is at all complicated.

(28) If you MUST change something make a written note of it so that no muddles arise later.

これら2つの例文は特に「手書き」ということを示したいわけではないように思われる。それでも前置している理由としては、書かれたその後に焦点が当たっているからだと考えられる。この(27)も(28)も書くということよりも、書いて残しておくことを重視している。このように動作のその後の結果に焦点が当たっているということも前置修飾の特徴である。これもまた既に上述したことである。

最後の例である。

(29) This comment by the Reporter now forms part of Sheriff Principal Ronald Ireland’s written note in his ruling following that first appeal:

この場合も、既に述べたように「手書き」という意味で written が使われていると考えたい。更にこの場合は Ronald Ireland が書いたメモ、つまり“a note written by Ronald Ireland”とほぼ同じであると考えたいが、このように所有格を意味上の主語のように理解していいのかは現時点では不明である。“his broken arms”が“broken arms by him”と同じとは考えにくいからである。所有格と分詞の関係は今後の課題としたい。

ここまで written が前置されている理由を述べてきたが、現時点では説明できないような

例があることも事実である。

- (30) Also, it must be understood that the notes written represent all analogous notes in any octave (for instance, the first note E stands for any E within the range of audibility) .

これは後置修飾の例であるが、書かれたこと自体よりも、書かれた結果の音符を示していると考えられる。これまでの主張通りであれば、written notes となるはずである。notes を written 一語で後置修飾している例は上記のものしかなくマイノリティーであることは確かだが、この場合の後置修飾が前置修飾とどのように違うのかということも今後の課題としたい。

この 2.3 では、2.2 で述べた前置修飾の特徴がどれくらい当てはまるかを検証した。それは「当然と考えられる状態と対照的な状態を表す」ということと、「動作を受けたその後の状態に焦点が当たっている」ということである。

3. 容認されないものと容認されるものの比較

文法書では、いくつか容認されない例を挙げ注意を促していることが多い。ここでは、そういう例について考察していく。安井（1996: 476-477）は「他動詞の場合、従来は、ほとんど注意されたことがなかったけれども、この場合も、かなりの制限がある。例えば、次のような過去分詞の用法は、いずれも、容認されないものである」として、以下のものを挙げている。分類は筆者によるものである。

- (A) *the eaten food, *the asked question, *the bought car
- (B) *the chosen official
- (C) *the hit boy, *the killed man
- (D) * the caught bird

まず (A) が容認されない理由であるが、これは対比がなされていないからであると考えられる。食べ物は食べるものであるし、質問は尋ねるものである。車も買って手に入れることが常識である。当然と思われる状態と対照的な特徴を付加していないので前置できないのである。食べていない食物と区別するのであれば、(31) のように後置しなければならないのである。

- (31) The study of past dental health can provide only general indications about the food eaten.

(B) ~ (D) についてであるが、安井は同様の意味を持つが前置できる例を比較として並べている。

(B') *a chosen official — an elected official

(C') *the hit boy — the beaten boy

*the killed man — the murdered man

(D') *the caught bird — the captured bird

そして「動詞の意味内容に、いわば、なんらかの副詞的修飾語のような要素が加わっていると考えられる場合に限って、他動詞の過去分詞は、名詞に前置され、修飾語として用いられるのではないかと考えられる」としており、基本的には同意見である。しかし、「なんらかの副詞的修飾語のような要素が加わっている」とはどういうことなのかの説明はされておらず、これだけでは不十分だと考えられるので更に考察を加えたい。

(B') の chosen が前置できず、elected が前置できることについてであるが、これは過去分詞よりも前のレベルの問題だと思われる。つまり choose と elect の問題である。LDOCE は elect を “to choose someone for an official position by voting” と記しており、日本語では同じ「選ぶ」でも、使い分けなければいけない。実際に BNC の例を見てみると、officials (official では該当なし) を選ぶときには elect が用いられている。“choose officials” という表現がないのだから、“chosen officials” が容認されないのも納得がいく。official と choose の相性が悪いだけであり、chosen が過去分詞として前置修飾している例はたくさん見つけることができる。

(C') に関しては「副詞的修飾語のような要素が加わっている」ということで説明できる。LDOCE の beat と murder の項を見ると分かり易い。

beat: to hit someone or something many times with your hand, a stick etc

murder: to kill someone deliberately and illegally

これにより、beat は “repeatedly hit” と、murder は “deliberately and illegally killed” と考えられる。表面上は存在しないが、副詞を内包しているとみなすことができるのである。副詞を伴った前置は再三述べてきた通りである。条件を満たしていないために前置されないが、(31) の eaten 同様、後置することは可能であり、むしろこの場合は後置させなければならない。

(32) HCS member Ali Haroun said in Brussels on Feb. 26 that half of a total of 50 people killed had been members of the army and gendamerie.

最後に (D) である。catch と capture は (C') のようには、簡単に副詞的ニュアンスで説明できない。LDOCE の定義を見る限りでは、罠などを使って捕まえるか、追い掛け回して捕まえるかの違いしかないように思われる。

catch: to trap an animal or fish by using a trap, net, or hook, or by hunting it

capture: to catch an animal after chasing or following it

この定義からだけでは、capture にどのような副詞が内包されているのか判断できない。しかし、capture の別の定義が理解するうえで非常に重要だと感じた。それは “to catch a person and keep them as a prisoner” というものである。なぜ重要か、それは捕まえた結果その後捕虜になるということまでを含んでいるからである。既に述べたように、「その後」に焦点が当たっているということは過去分詞の前置の重要な特徴の一つである。容認されるとされている “the captured bird” を検索すると 1 件しかなく、しかも比喩的な表現となっている。

(33) ‘Darling, you do want me?’ She was the captured bird again, wings folded in acceptance.

捕まえられたというよりも、その後の囚われの身ということに焦点が当たっているように思われる。このように capture は動作の後の状態に着目点を持つていくことができるので前置が可能なのである。

以上、ここでは容認されないものと容認されるものの考察を行い、これまで述べてきた過去分詞の前置修飾の特徴で説明できることを示した。(B') ~ (D') の動詞を見ると、容認される動詞が容認されない語の下位語になっており、これも過去分詞の前置を考える上では重要であろう。どういった語が意味的に副詞を内包しているかということや、「その後」に焦点があるかということは非母語話者には判断の難しいことであり、覚えたり確認する必要があるだろう。しかし、前置修飾の特徴を知っていれば (A) は避けることができると思われる。

4. おわりに

ここまで述べてきたことを簡潔にまとめておきたい。

- ・前置修飾の場合形容詞的な意味を持つ
- ・前の文脈からその過去分詞が名詞の不可欠な特徴になっている場合には前置される
- ・一般に当然と思われる状態とは対照的な特徴を付加する場合は前置される
- ・副詞を伴った場合は前置される
- ・「その後」に焦点が当たっている場合前置される

BNC の例文を参照しながら考察を加え、上記のことが前置の条件であると述べた。

これらのことを考えると、特に過去分詞に関しては、分詞 1 語なら前、他の語を伴うなら後ろという説明に留まらず、もう一歩進む必要があるように感じる。過去分詞は 1 語か他の語を伴うかに関わらず、後置が基本であり、これまで述べてきた条件をクリアした場合にだけ前置することができるのではないだろうか。このように考えることで、分詞 1 語でも後置が起こることや、1 語でも前置できないケースがあるということを理解することができる。

とはいえ、検証がしやすく前置と後置の違いが顕著なほんの一握りの過去分詞しか検証できておらず、当然これだけでは全ての過去分詞に適用できるとは言えない。また、本文中にも載せた通り、問題のある例文や考察すべき現象もたくさん残っている。これらを解明していくことが今後の課題である。それでもここまで述べてきたことは、過去分詞の前置を考えるうえで重要なことであるし、一定の特徴は記せたと考えている。今後の研究の第一歩になればと考える次第である。

参考文献

- Carter, Ronald and Michael McCarthy. *Cambridge Grammar of English: A Comprehensive Guide: Spoken and Written English Grammar and Usage*. Cambridge: Cambridge UP. 2006.
- Declerck, Renaat. *A Comprehensive Descriptive Grammar of English*. 東京: 開拓社. 1991.
- Sinclair, John. *Collins COBUILD English grammar*. London: Harper Collins. 1990.
- Swan, Michael. *Practical English Usage. 3rd ed.* Oxford: Oxford UP. 2005.
- Quirk, Randolph et al. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman. 1985.
- 荒木一雄 他. 『現代の英文法 第 7 巻 形容詞』 東京: 研究社出版. 1976
- 安藤貞雄. 『現代英文法講義』 東京: 開拓社. 2005.
- 乾亮一. 『英文法シリーズ 15 分詞・動名詞』 東京: 研究社. 1954.
- 江川泰一郎. 『英文法解説 - 改訂三版 -』 東京: 金子書房. 1991.
- 小川佐太郎. 『英文法シリーズ 8 形容詞』 東京: 研究社. 1954.
- 斎藤武生 他. 『講座・学校英文法の基礎 第三巻 冠詞・形容詞・副詞』 東京: 研究社出版. 1984.

杉山忠一.『英文法詳解』東京:学習研究社.1988.

安井稔.『英文法総覧』東京:開拓社.1996.

辞書

ロングマン現代英英辞典.5訂版.東京:桐原書店.2009.

A Study of Premodifying Past Participles

DENAWA, Takayoshi

The past participle can be both prepositive and postpositive. It is often said that a single past participle is a premodifier and that a past participle accompanying other words is a postmodifier. But corpora show that this is not altogether true. There are a large number of examples found that do not conform.

This paper considers premodification by past participles and attempts to describe the kind of features that they have. Where they are adjectival, indicating general states or highlighting consequent results, past participles come before nouns. When these state or results are not implied, they may not be prenominal and must follow nouns. This paper concludes that past participles are in principle postmodifiers and that if and only if the above conditions are satisfied, past participles can precede nouns.